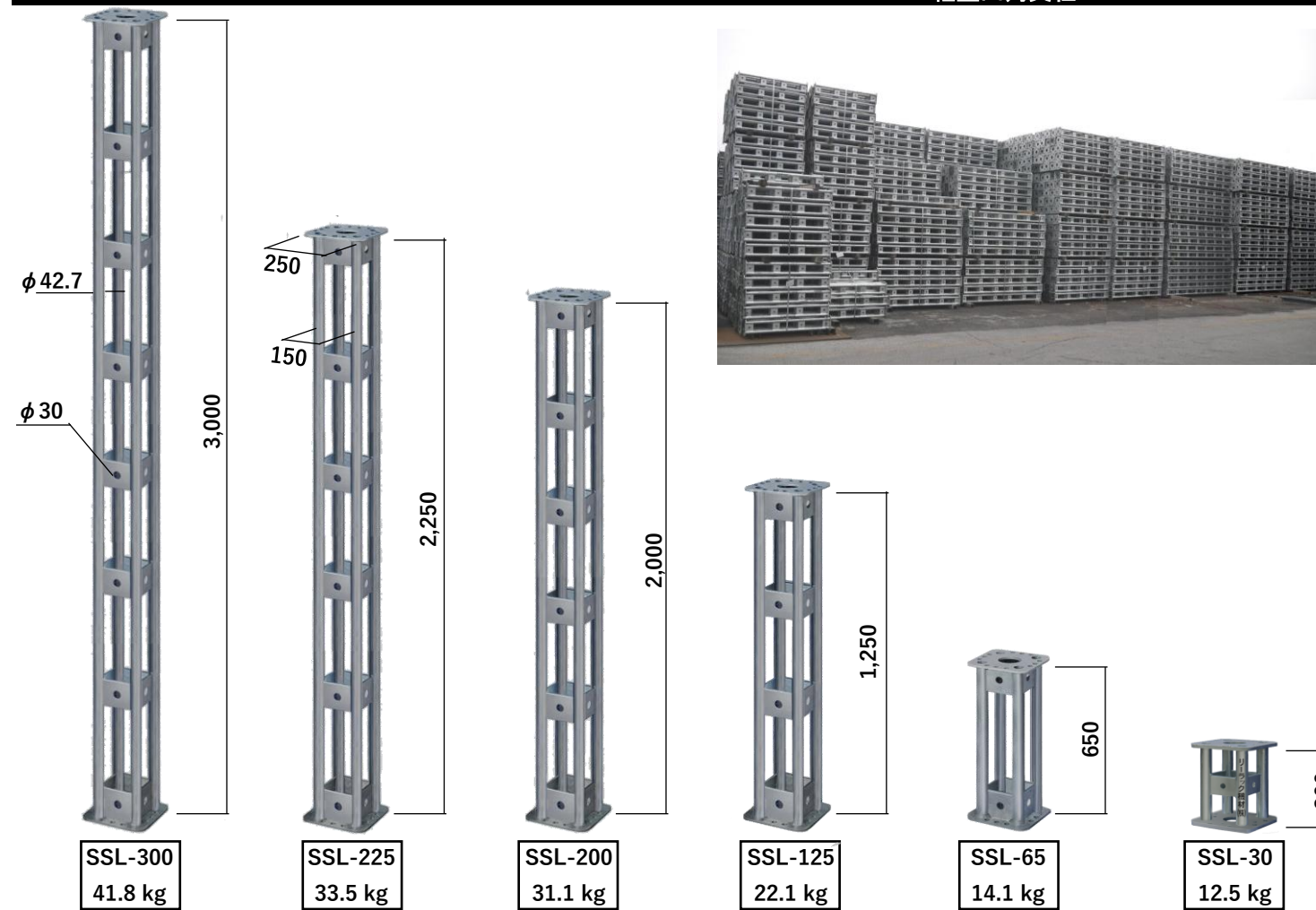
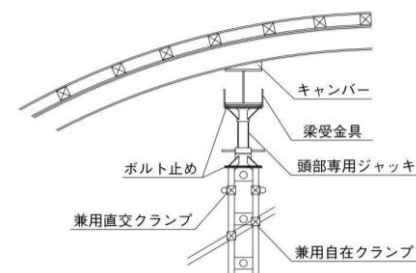


特長

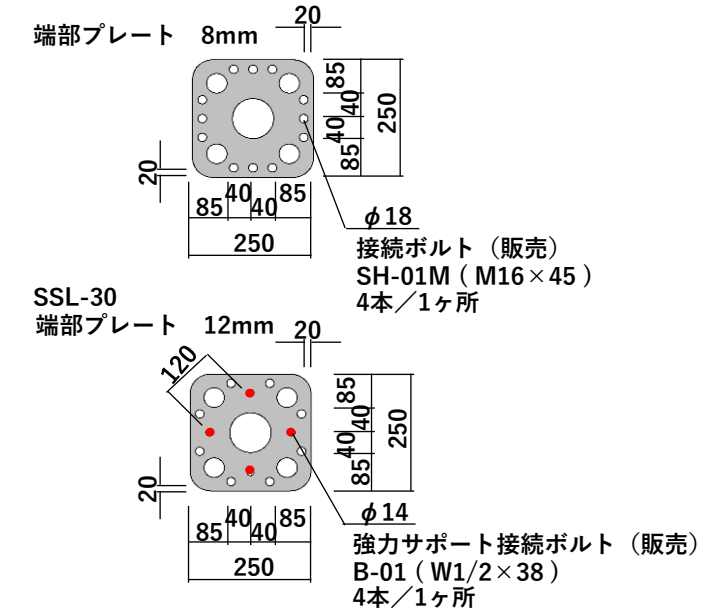
- 1) 安全性
 - ①強度が高く、シンプルな構造で強度のバラツキが少ない。
 - ②鋼管(STK500-φ42.7×2.4)を使用しているので簡単にクランプでつなぎ、大筋違が取付できます。
 - ③最大使用荷重196kN(20ton)
- 2) 機能性
 - ①各ユニットは完全対称形となっているので、上下、左右方向の注意が不要です。
 - ②各ユニット間のつなぎは単管パイプを使用し、クランプで容易に取付けられます。
 - ③ジャッキは上下に取付けられ、280～580mmの調整ができますので、どんな高さにも対応します。
- 3) 経済性
 - ①小型、軽量ですので、運搬、保管が容易です。
 - ②使用荷重が大きいため、支柱数が少なく、空m3当りの施工費が抑えられます。

最大積載荷重 196kN (20t)

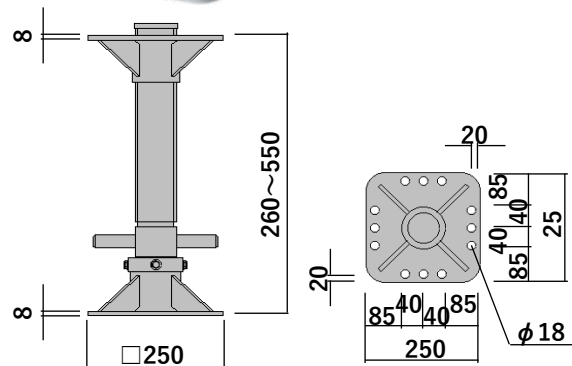


JIS G3444 (一般構造用炭素鋼鋼管) STK500-φ42.7×2.4
溶融亜鉛メッキ

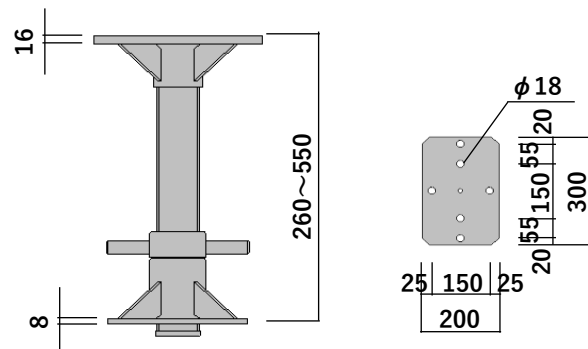
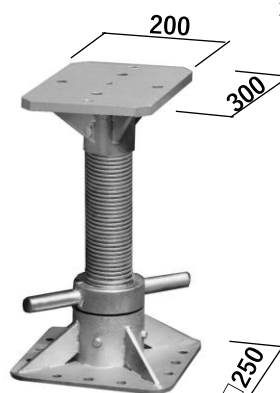
断面性能	
断面積	12.156 cm ²
断面二次半径	7.63 cm
断面係数	94.5 cm ³
断面二次モーメント	708.5 cm ⁴



軽量四角支柱 ジャッキ SSJL-55 20.8 kg
溶融亜鉛メッキ



軽量四角支柱 頭部専用ジャッキ NSJL-30 26.8 kg
溶融亜鉛メッキ



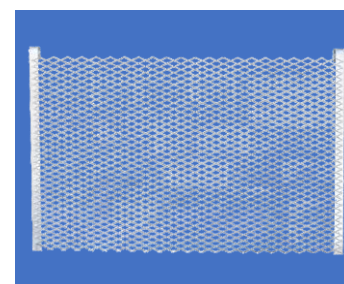
安全に積み下ろしするために専用パレットをご利用下さい
軽量四角支柱 四角支柱ジャッキ吊パレット PAT.



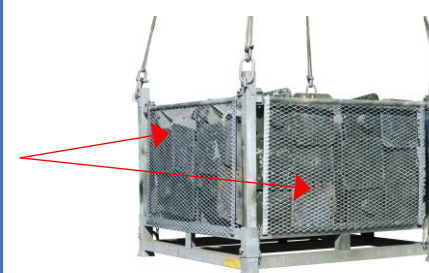
1パレット：40台収納
パレット重量 141 kg
積載総重量 約973 kg
パレット本体 SSJL-P×1台
パレット柱 SSJ-P1×4本
パレット手摺 SSJ-P2×4本
トグルピン SSJ-P4×4個



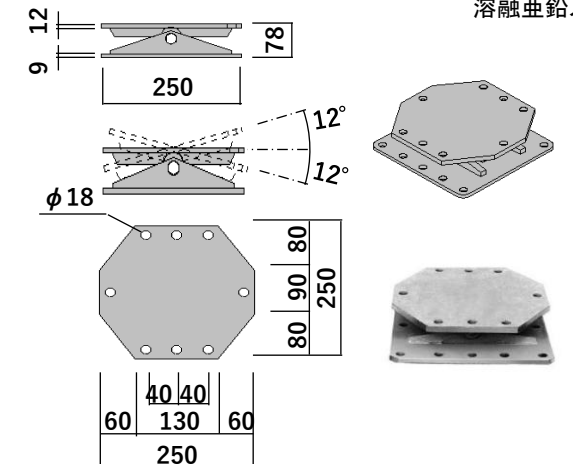
SSJ用囲い網 SSJ-P5 4.8 kg



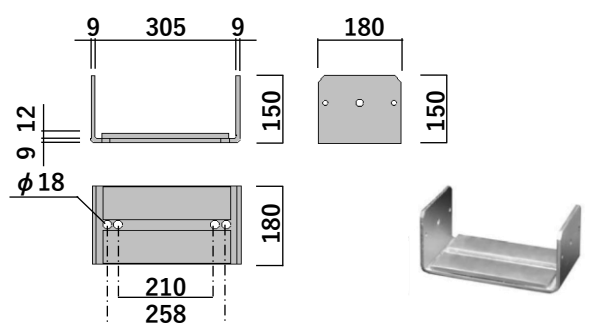
囲い網を使用すれば、
安全性が向上します。



軽量四角支柱 自在ベース SSJL-75 11.7 kg
溶融亜鉛メッキ



軽量四角支柱 梁受金具 SSLU-31 11.2 kg
溶融亜鉛メッキ



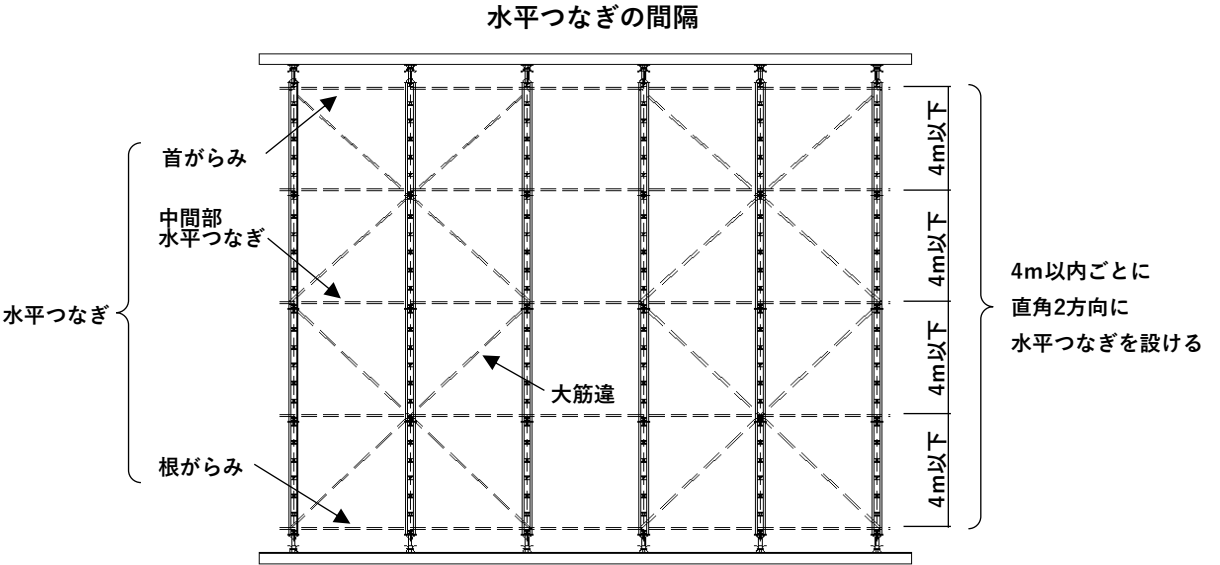
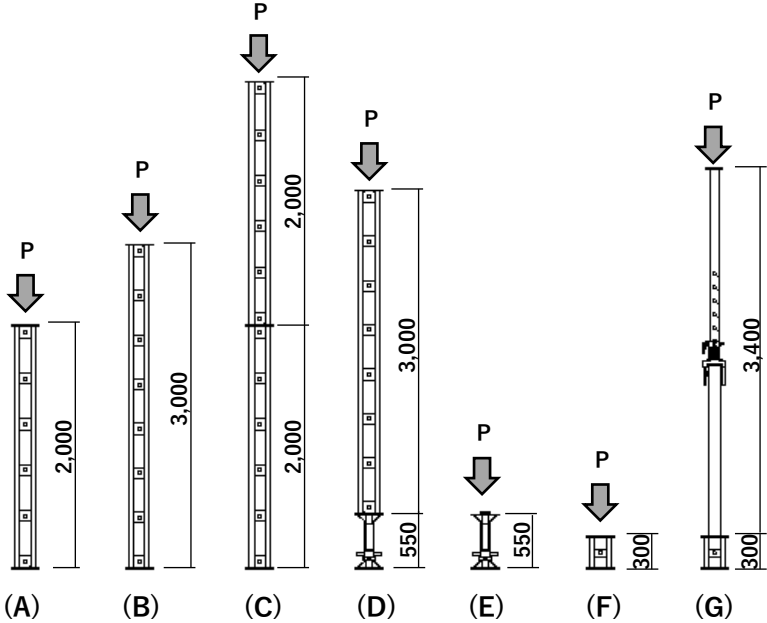
組合せ表

片側ジャッキ							
適用高さ (mm)	SSL-65	SSL-125	SSL-200	SSL-225	SSL-300	SSJL-55	重量 (kg)
910～1,200	1					1	35.9
1,510～1,800		1				1	43.9
1,560～1,850	2					1	51.0
2,160～2,450	1	1				1	59.0
2,260～2,550			1			1	52.9
2,510～2,800				1		1	55.3
2,760～3,050		2				1	67.0
2,910～3,200	1		1			1	68.0
3,160～3,450	1			1		1	70.4
3,260～3,550					1	1	63.6
3,510～3,800		1	1			1	76.0
3,760～4,050		1		1		1	78.4
4,010～4,300		3				1	90.1
4,260～4,550			2			1	85.0
4,510～4,800			1	1		1	87.4
4,760～5,050				2		1	89.8
5,010～5,300		2		1		1	101.5
5,260～5,550			1		1	1	95.7
5,510～5,800				1	1	1	98.1
5,760～6,050		1	1	1		1	110.5
6,010～6,300		1		2		1	112.9
6,260～6,550					2	1	106.4
6,510～6,800			2	1		1	119.5
6,760～7,050			1	2		1	121.9
7,010～7,300				3		1	124.3
7,260～7,550			2		1	1	127.8
7,510～7,800			1	1	1	1	130.2
7,760～8,050				2	1	1	132.6
8,010～8,300		1	1	2		1	145.0
8,260～8,550			1		2	1	138.5
8,510～8,800				1	2	1	140.9
8,760～9,050			2	2		1	154.0
9,010～9,300			1	3		1	156.4
9,260～9,550					3	1	149.2
9,510～9,800			2	1	1	1	162.3
9,760～10,050			1	2	1	1	164.7
10,010～10,300				3	1	1	167.1
10,260～10,550			2		2	1	170.6
10,510～10,800		1			3	1	172.3
10,760～11,050				2	2	1	175.4

鉛直荷重試験

- (A) 主柱 SSL-200 1層
(B) 主柱 SSL-300 1層
(C) 主柱 SSL-200 2層
(D) 主柱 SSL-300 1層 + ジャッキSSJL-55 1台
(E) ジャッキSSJL-55 1台
(F) 主柱 SSL-30 1層
(G) 主柱 SSL-30 + 強力サポート 40型 1台

最大強度 (kN)							
	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)
(1)	616.4	592.9	580.2	579.2	945.7	795.4	344.8
(2)	614.5	586.0	570.4	528.2	942.8	806.7	227.8
(3)	621.3	590.0	600.7	583.1	953.5	803.1	224.7
平均	617.4	589.6	583.8	563.5	947.3	801.7	
荷重20ton時の縮量 (mm)							
	1.1	2.2	2.5	3.2		0.5	5.1



組立上の注意事項

重荷重を支持するのに十分耐え得る強固な基礎を設ける。
枠組足場材のような自立性が無いので高く組み立てる場合は、接合部の折れに注意し水平つなぎ材と大筋違を設けて安定を確保しながら進める。
支柱上部の梁、大引材などは梁受け金具等にボルト等で固定する。
組立に先立ち組立図を作成し、その図面に基づいて組み立てること。

- 1) 基 礎
①地盤上に直接建てない。地盤を締固め、ならし、敷鉄板やH鋼等を敷き、支柱の滑動、沈下がないようにする。
②地盤が悪い時には、コンクリート基礎や杭打ちの措置をする。
③地耐力を悪化させないように排水を考慮する。

- 2) ユニット柱
①支柱脚部はアンカーボルト等で固定する。
②支柱脚部には直角2方向に単管パイプとクランプで根がらみを設け滑動を防止する、
③ユニット柱は接合部で折れが生じやすいので注意し、水平つなぎ材と大筋違を設けるときに折れを直しながら垂直に組み立てる。
④高さが4mを超える場合は、高さ4mごとに直角2方向に水平つなぎを設ける。
⑤水平つなぎは、ユニット柱の接合部に近いところに設ける。
⑥支柱の安定向上のため、梁、大引材や水平つなぎの両端を壁等の躯体に固定する。
⑦大筋違は水平つなぎと支柱との交点近くを始点とし、別の交点を終点とするように設ける。
⑧水平つなぎ及び、大筋違に単管パイプを使用する場合は、その取付にはクランプを使用し番線は使用しない。
⑨支柱のねじれ防止に水平筋違を設ける。

- 3) 梁受け金具
①梁及び大引材の固定には、支柱専用の梁受け金具などを用いて固定する。
②型枠が傾斜している場合、水平力により、または大引材が滑動をおこすので特に強固にボルトなどで緊結する。
③梁または大引材は、少なくとも支柱3本以上またがせる。

ジャッキ等金具類の組合せ

下部

ジャッキ	ジャッキ + 梁受け金具	ジャッキ + 自在ベース	梁受け金具	自在ベース
				

上部

ジャッキ	ジャッキ + 梁受け金具	ジャッキ + 自在ベース	ジャッキ + 自在ベース + 梁受け金具	
				

梁受け金具	自在ベース	自在ベース + 梁受け金具
		 

頭部専用ジャッキ	頭部専用ジャッキ + 梁受け金具	頭部専用ジャッキ + 自在ベース
		

強力サポートとの組合せ例



SSL-30と強力サポートを組合わせる場合は、全長での強力サポートの許容荷重を20%減して下さい。

玉掛けの注意

玉掛けする場合には、図のようにユニット柱にワイヤー等を掛け、吊上げて下さい。

絶対にジャッキ部を吊らないで下さい。ジャッキが破壊し、ユニット柱が落下するおそれがあります。

